

第13回研究会の議事録

- 日時：平成25年12月21日(土) 13:00～16:00
- 会場：横浜国立大学みなとみらいキャンパス
ランドマークタワー18階1809室
- 参加者：(メンバ) 魚田、神沼、小久保、高木、田名部、原
(一般参加) 2名
(相談者) なし
- 配布資料：なし

■内容：

1. 個別相談

今回は、個別相談はなかった。

2. ワークショップの反省

下記次第で第8回のワークショップを開催した。

日時：2013年11月16日(土) 10:00～17:00

場所：専修大学神田校舎1号館4階 ゼミ45教室

ワークショップ終了後懇親会を開催(17:00～19:00)

内容：午前中は「情報システム論文の書き方」、「質的研究と量的研究、およびその混合」と題した講演を行なった。午後は混合法を中心に「研究計画書の作成」の講義と演習を行なった。

参加者：外部から5名 内部から6名の計11名

準備した内容と参加者の期待にずれがあり、今後の企画において内容、教材により留意すべきことがあると気づかされた。

- ・「情報システム」という概念に対する捉え方が多様で、共通理解に達するための工夫が必要
- ・情報システムの「論文を書く」ということと「研究する」とことに関する理解が不十分である。情報システムという視点での研究の計画の立て方や論文の書き方の理解を深めることが必要
- ・演習課題が高度すぎて目的の演習成果を出せなかった。演習にむけてよい教育的題材を工夫する必要がある。
- ・論文の書き方のHow Toが求められている。

3. 全国大会における研究会発表の反省

下記次第で全国大会にて研究会の報告を行なった。

場所：新潟国際情報大学

日時：11月30日（土）11:10-11:30

「情報システム論文の作成および査読のあり方研究会」報告

研究会のこれまでの活動を報告した。

現場には論文の材料があるにもかかわらず、論文としてまとめられてこない理由に関する意見が求められた。

これに対し、「近年の国際的情報システム研究コミュニティで脚光を浴びてきているデザイン科学的情報システム研究という研究方法論が、情報システム実践と調和しやすいのではないか」と回答した。研究会では、「成果物の構築という実際の活動に、上述したような研究の視点を導入することが、実践活動を研究論文へと導くことになる」といった議論も行われている」ことを紹介した。

4 情報システム論文の書き方ガイドブック

年度内の発刊を目指しガイドブックを準備してきた。概ね、計画通り原稿の準備は進んできている。しかし、今回のワークショップの成果や全国大会での発表を通して反省すると、ガイドブックの目指すところと期待されているところにギャップがあることが判明した。議論の末、今のまま発刊に持ち込むより、利用者に期待されていることを考慮した内容、構成に改定して発刊した方が良いという結論に到った。

年度内発刊を半年ほどずらす方向で再度計画を次回、次々回の研究会で検討しなおすこととなった。

ガイドブック発刊延期の影響に関する調整は原が行なう。

5 今後の活動予定

第15回 2/1 第16回 2/15 第17回 3/15

6 次回予定

第14回 研究会

■日時：平成26年2月1日（土）13:00～16:00

■会場：横浜国立大学みなとみらいキャンパス

ランドマークタワー18階1809室

住所：横浜市西区みなとみらい2-2-1

アクセス案内：<http://www.yokohama-landmark.jp/web/access/>

■議題：1 論文の書き方相談会

2 ガイドブックの再企画

3 その他

以上